

『横浜貿易新報』スペイン・インフルエンザ関連記事一覧表（大正7年10月～同8年2月、大正8年12月～同9年2月）

33	大正7年(1918) 11月7日	風邪の本性◇インフルエンザ菌に原因すと決定／北里研究所発表	1892年バイファルRichard F. J. Pfeiffer氏発見のインフルエンザ菌（その後、この菌は無関係で、ウィルスが原因と判明）			○												
34	大正7年(1918) 11月7日	愈々猖獗の悪性感冒＝市内全校休校＝◇通信機関障碍	横須賀郵便局、横須賀市内の小学校罹病者の割合統計	○		○												
35	大正7年(1918) 11月7日	豊田校休校◇職員感冒から	中郡豊田小学校	○														
36	大正7年(1918) 11月7日	感冒で親子の保護	松田町の木賃宿に行商中の玩具商一家										○					
37	大正7年(1918) 11月8日	風の神の猛威◇生徒の患者千三百七◇十一人内死亡者六人	橘樹郡内の各小学校の患者数の統計	○														
38	大正7年(1918) 11月8日	足柄下郡の流行性感冒＝小田原町は漸次回復＝	小田原町内、中学校	○														
39	大正7年(1918) 11月9日	巡回診療始る＝市内四部落に対して＝県の救護班二組派遣	県衛生課、横浜市内細民部落へ恩賜救恤基金による救護班の組織派遣			○												
40	大正7年(1918) 11月9日	川崎署長感冒で殞る／佐野栄作氏逝				○												
41	大正7年(1918) 11月9日	中郡感冒予防	中郡各町村の各官署公衛小学校教員、衛生組合	○		○	○											
42	大正7年(1918) 11月9日	船越校感冒◇患者は全校の半数	三浦郡、逗子小学校、浦賀・三崎両校	○														
43	大正7年(1918) 11月10日	感冒の床から	与謝野晶子寄稿														○	
44	大正7年(1918) 11月10日	交番が臨時薬局／巡回診療の好成绩／二日目から誤解が解けた	県衛生課の救護班、横浜市内細民四部落の救護			○												
45	大正7年(1918) 11月10日	熱田丸感冒◇提供船の火夫死亡す	シアトルより帰航中の日本郵船熱田丸										○					
46	大正7年(1918) 11月12日	更に細民救助策／巡回診療で発見した極貧者／薬は貰へても粥も啜れぬ	県衛生課による救護班の巡回診療。極貧者へ恩賜救恤基金から分配金			○												
47	大正7年(1918) 11月12日	秦野感冒◇学校は二割以上欠勤	秦野地方各町村の小学校生徒	○														
48	大正7年(1918) 11月13日	鉄窓を潜る風の神＝横浜監獄感冒＝囚人三名死す	横浜監獄														○	
49	大正7年(1918) 11月14日	中郡感冒益々猖獗◇七小学校休校す	中郡内の七小学校、町役場	○			○											
50	大正7年(1918) 11月14日	感冒終息近し◇浦賀町に於ける	浦賀小学校、三崎町小学校	○														
51	大正7年(1918) 11月14日	感冒漸く下火◇各校続々開校	横須賀市及三浦郡内、小学校	○														
52	大正7年(1918) 11月15日	感冒に妬まる◇市俄古（シカゴ）丸引返す	大阪商船市俄古丸											○				
53	大正7年(1918) 11月15日	中郡感冒猖獗／各校の停休校／当局の予防督促	中郡内各小学校の届出患者数の統計	○														
54	大正7年(1918) 11月15日	感冒と半島◇休校と休校延期	三浦郡浦郷、初聲、逗子小学校	○														
55	大正7年(1918) 11月16日	市内の感冒は漸く下火／流行時の死亡率は◇昨年の三倍	横浜市衛生課による11/1～14までの横浜市内の死亡者数の調査結果。火葬場の申込数、火葬数															
56	大正7年(1918) 11月16日	上海では西比利（シベリア）風＝腸胃を害して＝虎列拉（コレラ）と誤る																○
57	大正7年(1918) 11月16日	中郡各校感冒状況◇患者益々激増	中郡内各小学校	○														
58	大正7年(1918) 11月16日	下郡の感冒患者	松田署の調査															
59	大正7年(1918) 11月26日	流行感冒の高橋貴院議員◇二十五日軽快に赴く	鎌倉町由比ヶ浜別荘の貴族院議員															○
60	大正7年(1918) 11月28日	鎌倉由比ヶ浜の高橋新男爵◇病床に御沙汰拝受	男爵を授けられた貴族院議員															○
61	大正7年(1918) 12月3日	県下を舐め廻した西班牙（スペイン）風と工場◇男工と女工とは孰が＝多く取付かれたか	県工場監督課による県内の54工場での男女別罹病者数、侵入経路の調査結果			○												
62	大正7年(1918) 12月5日	感冒箱根に入る◇生徒二十五名に感染	箱根町内、小学校	○														
63	大正7年(1918) 12月5日	市死亡率激増	横須賀市内の11月死亡者数、インフルエンザと肺炎															
64	大正7年(1918) 12月10日	児童感冒数◇下郡は全生徒の五割	足柄下郡内の小学校、高等女学校、実業補習学校	○														
65	大正7年(1918) 12月17日	世界風／海兵団を襲ひ／死亡三十余名	横須賀海兵団の新兵										○					

100	大正8年(1919)	2月14日	感冒愈々猖獗	鎌倉町									○				
101	大正8年(1919)	2月15日	第三南吉田ノ臨時休校＝四十五兩日	気泡5校以外の横浜市内小学校の生徒数と患者数	○								○				
102	大正8年(1919)	2月15日	医師は全く眼が廻るノ流行る医者は一夜隔に徹夜ノ売薬も平素の倍売れる				○										
103	大正8年(1919)	2月15日	県農校愈休校ノ感冒猖獗の為	中郡平塚町県立農業学校	○												
104	大正8年(1919)	2月16日	山縣公容態佳良ノ体温は次第に下リノ引続き前日と大差なし	古稀庵(小田原市内の別荘)で療養する山縣有朋の病状動向										○			
105	大正8年(1919)	2月16日	小学児童の感冒調査ノ十四日現在数	横浜市内の小学校の2/14現在の在籍児童数、患者数	○								○				
106	大正8年(1919)	2月21日	第一南吉田ノ一部休校ノ女生徒中患者続出	第一南吉田小学校	○								○				
107	大正8年(1919)	2月21日	流行感冒北部浸潤ノ農校授業開始										○				
108	大正8年(1919)	2月22日	瀕死者は死体扱ノケープタウンの世界感冒ノ路上に死人が轉げて居る	最近南米から帰着した人の談話											○		
109	大正8年(1919)	2月22日	感冒予防注射ノ小田原町に於て	小田原町									○				○
110	大正8年(1919)	2月22日	提供船の感冒＝高等海員九名死亡ノ遭難船仁川丸＝船長等不日＝神戸着	(第一次世界大戦中の)米國への提供船内での流行								○					
111	大正8年(1919)	2月25日	感冒患者＝は幾分減ったノ本月上半の統計	各市郡の2/15現在の患者数、死亡数、1月～2/15までの死亡者										○			
112	大正8年(1919)	2月25日	貧困者救療 県救済会の実費支給	県の救済協会による救療			○										
113	大正8年(1919)	2月26日	感冒予防注射ノ一般希望者に施行	小田原町									○				○
114	大正8年(1919)	2月27日	貧民感冒施療ノ下郡医師会に於て	足柄下郡									○				
115	大正8年(1919)	2月27日	感冒は下火 鎌倉地方	鎌倉地方									○				
116	大正8年(1919)	2月28日	悪性感冒は下火ノ極貧者へ救助金	中郡吾妻村地方									○				
117	大正8年(1919)	2月28日	同情すべき一家ノ髪を切って粥に代ゆ										○				
118	大正8年(1919)	12月15日	流行性感冒が猖獗になればノ活動ト＝芝居は直ちに閉場させる	北里研究所の志賀博士曰く、内務省尾と警視庁では群衆の雑踏する營業は停止													○
119	大正8年(1919)	12月17日	感冒軍港に猖獗ノ横須賀在港艦に流行しノ陸上を襲はんとす	在泊の巨艦に多い殊に戦艦金剛				○									
120	大正8年(1919)	12月17日	全国初年兵にノ感冒患者＝が三分の二以上	近衛師団はじめ全国師団				○									
121	大正8年(1919)	12月17日	本郷小学校の流行性感冒＝罹病者七十余名	鎌倉郡本郷小学校	○												
122	大正8年(1919)	12月19日	鎮守府全員に覆口具(マスク)＝を当てシムノ流感漸く猖獗	横須賀軍港。横須賀海軍病院の収容患者数、死亡者				○				○					
123	大正8年(1919)	12月23日	軍港の感冒ノ益々猖獗＝赤十字の応援を仰ぎノ病院の大混乱	横須賀海軍病院、陸軍衛戍病院、予防注射				○				○					
124	大正8年(1919)	12月24日	市内の流行感冒患者＝千二百二十八名ノ内死亡八名	市の予防心得書を各町衛生組合・学校へ配布									○				○
125	大正8年(1919)	12月24日	軍港の感冒愈猖獗＝奥宮市長も犯さる	横須賀鎮守府参謀長、横須賀市長が罹病。海兵団内の将校				○	○			○					
126	大正8年(1919)	12月27日	例の流行性感冒ノ市内に侵入すノ未だ差したることもないがノ注射して置くに限る	保土ヶ谷の富士瓦斯紡績で300名の患者と数名の死者		○						○					○
127	大正8年(1919)	12月27日	応援のノ看護婦＝も遂に罹病すノ横須賀の感冒	海兵団軍医、日本赤十字社横浜支部の看護婦危篤。市民の多くが覆口具(マスク)					○			○					○
128	大正9年(1920)	1月6日	正月になって風引が多いノ外出頻繁の為めと夜更しの結果											○			
129	大正9年(1920)	1月8日	小田原地方の感冒麻疹ノ猖獗を極む	小田原及び付近町村、県の防疫官を小田原緑町へ派遣									○				
130	大正9年(1920)	1月8日	鎌倉町の感冒予防注射	鎌倉へ防疫官出張し予防注射を行う									○				
131	大正9年(1920)	1月11日	流行感冒は前年より死亡率が高いノ全国の患者三万八千人ノ内五百三十人死亡											○			
132	大正9年(1920)	1月11日	当市にても猖獗の兆ノ万一続発すれば伝染病院へノ収容の準備中	横浜市、各衛生組合へ予防注意。									○				
133	大正9年(1920)	1月11日	大磯感冒猖獗	湘南大磯地方									○				
134	大正9年(1920)	1月12日	陸軍の流感ノ予防に拘らず猖獗					○									
135	大正9年(1920)	1月12日	正月早々からノ火葬場の繁昌ノ流行感冒と久保山の賑ひノ昨日迄に新佛百三十七人											○			

